学校訪問だより【8】 朝日村立朝日小学校

子供の自己肯定感を育むために

令和7年10月22日
中信教育事務所
文責：鳥居正人

９月１８日（木）に、朝日小学校の「ボランティアさんといっしょ」を参観させていただきました。この活動は「できる人が、できる時にやる」を大切に、持続可能なボランティア活動となるよう、地域の方にとっても学校職員にとっても無理なく行うこと、みんなにとって WIN-WIN となることを大切にされています。

ボランティアさんの関わり

【５年　家庭科の授業】
ボタンつけの場面

【１年　国語の授業】
カタカナの練習の場面

ボランティアさんの様子・声がけ

【５年生の支援】
・子供たちの様子を見ながら必要に応じて支援に入る。
・子供たちが何に困っているかを把握し、声をかける。
・子供たちの進み具合を見ながら声をかけていく。
・「できたね」「うまいね」など、温かい言葉をかける。

【１年生の支援】
・「上手」「きれいに書けているね」「大きく書けているね」「バランスよく書けているね」「名人だね」など、具体的な言葉で褒める。
・子供の目を見て褒める、声をかける。
・温かい声をかけながら大きな花丸を書く。
・字のバランスが崩れている場合は、担任の先生へ声をかけて指導をお願いする。

【子供たちの様子】
・ボランティアさんの声がけによって粘り強く取り組む。
・ボランティアさんに褒めてもらえて笑顔になる。
・できたことに満足感や達成感を感じている。

担任の先生の感想（１年生）

・ボランティアさんなど、複数の大人に見てもらって、褒めてもらって、子供たちにとっても良い機会となっている。
・ボランティアさんによって声がけの仕方は様々だが、それも子供たちには良いことだろうと思う。
・自分（担任）が、教室の前から見る様子と後ろから見る様子は違うので、良い刺激になっている。
・ボランティアさんにたくさん褒めてもらえて嬉しそう。

ボランティアさんに支援に入っていただくことで、担任の先生はクラス全体の様子を見たり個別支援をしたりすることができるので、子供たちの学習が充実すると感じました。さらに、子供たちにとっては自分が困っている時に頼れる大人がそばにいることで、気軽に聞くことができ、学習を進めていくことができると思います。また、温かい言葉、励ましの言葉などの声をかけてもらえることで、やる気が出たり諦めずに粘り強く頑張ろうという気持ちになったりするなど、学習への意欲につながることと思います。

活動前、校長先生が「子どもたちの自己肯定感を高められるように、一声かけていただければ」、教頭先生が「皆さんも楽しんでください」とボランティアさんに伝えていました。この共通認識が、ボランティアさんの子供たちへの温かな声がけや支援につながっていると思います。また、教頭先生に地域性についてお聞きすると、「地域の方は学校のために協力しようというお気持ちが強い」「ボランティアさん同士が自然と声をかけあっていたり口コミで広がったりしながら活動している」と話されていました。さらにコーディネーターの小林さんからは「子供たちに朝日村を好きになってほしい、将来は朝日村に帰ってきてほしい」という気持ちをお聞きしました。お話をお聞きし、地域の皆さんの「朝日村の子供たちのより良い成長のため」という気持ちを強く感じました。

そして、ボランティア活動を終えたボランティアさん一人一人に校長先生や教頭先生が「今日の子供たちはどうでしたか」と授業の様子を聞いたり「引き続きお願いします」「懲りずに来てくださいね」「次は〇〇がありますので、お願いします」などと声をかけたりする姿がありました。この一人一人への丁寧な対応がボランティアさんにとって次へのエネルギー、次も参加しようという気持ちとなっていることを感じました。